

---

# へっぽこメイドロボ

うわの空

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

へっばこメイドロボ

### 【Nコード】

N1672T

### 【作者名】

うわの空

### 【あらすじ】

「はじめました、ご主人さまさま」

俺の家に来たメイドロボは、へっばこメイドロボだった。

最近流行りの、メイドロボを買ってみた。のはいいが、

『はじめました、ご主人さまさま』

…明らかに壊れてるよな、これ。それを言うなら『はじめまして、ご主人様』だろ。

「欠陥品か？まったく…」

俺は早速、メイドロボを作っている業者に問い合わせしてみた。しかし返ってきた返事は、

「ああ、それは欠陥品じゃないです。最近流行ってるんですよ！へつぽこメイドロボ」

これだ。俺はため息をついた。よく見てみると、俺がメイドロボを注文したカタログにも【大人気！へつぽこロボ！】と小さく書かれている。

「もっとおっきい字で書けつつうの…」

『どうかしちやいましたか？ご主人さまさま』

「どうかしてるのはお前の日本語だ」

しかし…言葉遣いこそおかしいが、仕事はちゃんとこなすのかもしれない。メイドロボなんだから。

俺はしばらく様子を見てみることにした。ダメそうなら、クーリングオフ期間中に返品すればいい。

だが、このメイドロボは本当にへつぽこだった。

『ご主人さまさま、何かご用はないでございますか？』

「そうだなあ…。んじゃ、ご飯作ってくれ」

『かしこまりでございます』

ハチャメチャな日本語だが、なんとか分かる。それに俺が言うことも理解してるようだ。

さて、どんな料理を作るのか…。

『ご主人さまさま、ご飯、かんせ〜い!』

どこかの料理番組の如く、メイドロボは叫んだ。俺の腕を掴んで、テーブルへと引っ張っていく。

「分かった分かった。で、なにを作ったんだ…」

テーブルの上に乗っているのは、茶碗に盛られた白ご飯。それだけだった。

「…おい、おかずは?」

『はい?そんな話聞いてません』

「何言つて…。さつき、ご飯を作ってくれて言っただろ?」

『はい。だから、ご飯を炊きましたですよ』

俺は啞然とした。先ほど、俺が言っていることを理解してるとか思っただのは訂正する。理解してない。ある意味理解しているが、ある意味理解してない。

「ご飯つて言ったら普通、食事のことだろ!」

『ご飯はご飯ですよ、ご主人さまさま。何をプリプリしちゃってらっしゃるんですか』

俺はもう、呆れて物も言えなかった。このメイドロボには、データを書き換えるシステムもないらしい。

「…じゃ、食事を作ってくれ」

『どんなお食事にしますですか?食事と言っても色々ありますよ』  
「…んじゃ洋食」

『洋食と言っても色々ありますよ、何を作ればよろしくないのでしよ』

「…。」

こいつに食事を注文する時は、料理名まで言わなければならないらしい。

『ご主人さまさま、次は何をいたすべきなのでございませよ』

「…それじゃ、風呂を沸かしてくれ」

『あいあいさー』

…予想はしていたが、人間が入れないような温度の湯を沸かしてくれた。

『ご主人さまさま、次は何をいたすべきなのでございましょう』

「…もう何もしないでくれ」

『何もしない、というのはどのようにすればいいんでございませうのでしょうか』

「特に何もなくていいから、そこら辺にいてくれ」

『そこら辺にいるのですね。ガッテンでござすー!』

「…おまえ、なんでここにいるの?」

『そこら辺、と言われましたからです』

「だからって、なんでトイレに座ってるんだよ!明らかに邪魔だろ!?!」

「だけど、そこら辺の場所を指定されませんでしたので」

俺は落胆した。こいつはもう俺の手には負えない。返品しよう。

俺はさっさと、へっぽこメイドロボを業者に返品した。すると後

日、電話がかかってきた。

「いやあ!大変失礼しました!お客様にお渡しした商品に欠陥が見つかりまして!

よろしければ、無料修理を…」

「もう結構です」

俺は苛立ちのあまり、携帯を床に叩きつけた。何がへっぽこだ、やっぱり壊れてたんじゃないか。くそっ、業者め。

俺は床に叩きつけた携帯を見た。もしかしたら壊れてるかもしれない。物に当たるのはよくなかったな。拾わないと…

「…?」

何故か、身体がピクリとも動かない。

「え、な…?」

白くなっていく視界の中、俺の口から勝手に言葉が漏れた。

『エラーが発生しました。∴主人<sup>マスター</sup>ロボット、起動できません』

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1672t/>

---

へっぽこメイドロボ

2011年5月10日17時45分発行